

# 道総研の研究開発について

研究事業部

令和3年7月20日

# 道総研中期計画

第1期（平成22～26年度）

第2期（平成27～31年度）

第3期（令和2～6年度）

## 大きく変化する社会・自然環境の情勢

- ・ 地域人口の減少・高齢化  
（札幌圏への一極集中）  
→ 担い手不足
- ・ 気候変動，加速する温暖化  
→ 一次産業への影響  
→ 増える自然災害  
→ カーボンニュートラル
- ・ 新型コロナウイルス蔓延  
→ 働き方・人生設計の変化

## 進展する科学技術

- ・ ICT（IoT, AI）技術の急進  
サイバー空間⇔フィジカル空間  
→ DX・自動化・ロボット化
- ・ ゲノムテクノロジー

## 高まる道総研の技術力

- ・ 膨大な北海道データ
- ・ 多分野融合型組織の強み  
（多角的視点と総合力）
- ・ 数十年先を見据えたチャレンジ

# 第3期中期計画の研究推進項目

※数値は令和2年度の課題数

- (ア) 農業に関すること (235)
  - a 豊かな食生活を支える農業及び食関連産業の振興
  - b 環境と調和した持続的農業の推進
  - c 地域の特色を生かした農業・農村の振興
- (イ) 水産に関すること (91)
  - a 地域を支える漁業の振興
  - b 新たな資源の有効活用と高度利用の推進
  - c 自然との共生を目指した水産業の振興
- (ウ) 森林に関すること (87)
  - a 森林資源の循環利用による林業及び木材産業の健全な発展
  - b 森林の多面的機能の持続的な発揮
- (エ) 産業技術に関すること (67)
  - a 持続可能な地域づくりを支える産業の振興
  - b 成長力を持った力強い食関連産業の振興
- (オ) エネルギー・環境・地質に関すること (98)
  - a 再生可能エネルギーや循環資源などの利活用の推進
  - b 生活・産業基盤を支える環境の保全
  - c 災害の防止及び地質資源の活用
- (カ) 建築・まちづくりに関すること (42)
  - a 暮らし・地域・環境を育む建築・まちづくりの推進
  - b 省エネルギーと再生可能エネルギーの利活用の推進

# 重点的に取り組む研究推進項目

～ 総合力を発揮して取り組む研究の**3本柱** ～

(ア) 高品質・高品位な食料安定供給技術の確立と食関連産業の振興

(イ) 再生可能エネルギーなどの利活用と循環型社会の構築

(ウ) 生活基盤と産業振興に支えられた安全・安心で持続可能な地域社会の実現

# 道総研の研究制度

基礎的

応用的

基盤技術開発

実用化技術開発

## 奨励研究

産業振興や地域課題の解決に向けた研究に取り組み、研究遂行・開発能力・普及能力の向上を図る

## 経常研究

基盤的・先導的研究、環境や資源の継続調査、地域・道のニーズに対応した調査研究

## 戦略研究

道の重要施策に関する多分野融合型研究  
“3本柱”の柱ごとのプロジェクト研究

## 重点研究

実用化、事業化につながる研究、緊急性の高い研究

## 外部資金による研究

受託研究，一般共同研究，公募型研究

技術指導，依頼試験，講演などを通じたフォローアップ

# 令和3年度からの新たな取り組み

## チャレンジプロジェクト

社会実装に邁進する「シンク&ドゥタンク」として、未来に向けて夢のあるテーマを掲げ、研究推進と新たな産業・生活創造につながる事業化を両輪とするプロジェクト

(令和3年度選定課題：道産コーンウイスキープロジェクト、道産養殖サーモンプロジェクト)

## 道総研チャレンジプロジェクト

— 社会的存在意義のあるシンク&ドゥタンクをめざして —

### ●チャレンジプロジェクトとは

重要課題に  
果敢にチャレンジ

**研究 × 事業** → **成果の普及・社会実装**

### ●プロジェクトの進め方

① 構想・企画  
マーケティングに基づき、  
理事長がテーマ、目標を設定



② パートナーシップの構築  
事業化を目指す企業・団体等  
とパートナーシップを構築



③ プロジェクトの実施  
研究開発、調査、コンサルティ  
ング、技術指導、調整、広報  
など、パートナーとともに幅広く  
活動



④ 成果普及・社会実装  
市場の創造と拡大  
道民・道内企業サポーター  
の確保



事業継続  
新たな展開